

ピザパイのにんにくつよき雨月かな

藤田湘子

イタリアンの店に近づくと大蒜にんにくの匂いに誘われる。その香ばしさの違いが、味の旨さに比例するので、鼻を利かせれば大抵旨い店のドアを開けることが出来る。

六本木の「シシリア」を思い出す。中央例会等の三次会でよく行った。交叉点の近くでタクシーを降りて、地下へ階段を下りてゆく時に、にんにくの匂いに食欲をそそられた。赤と白のチェックのテーブルクロスの上に、四角いガーリックピザなどが置かれると、いかにもイタリアンという感じで、懐かしく思い出される。

地上に出て、横浜に帰られる先生のタクシーを皆んなで見送ったあと、見上げた夜空に満月のある時もあったが、月の見えない雨月の夜もあった。